

稲作情報



No.6 「適期:中干し開始」

J A えちご中越 さんとう営農センター
TEL: 0258 (41) 2887

令和5年 5月29日現在

「適期中干し開始」～「全圃場で溝切り」を実践しましょう

5月前半は、気温の寒暖差・日較差が大きく一部のほ場（軟弱徒長苗）で植え傷みが発生していますが、5月後半からは安定した天候が続いていることから、水稻の活着・初期生育は概ね良好となっています。また、気温の上昇とともにワキの発生も多くなっています。夜間落水や水の更新で“ガス抜き”してあげましょう。あわせて“適期中干し開始”に向けた準備（→茎数確認）を始めましょう!!

向こう1カ月は、暖かい空気に覆われやすく「気温の高い確率：50%」となる見込みです。生育状況と気象予報をこまめに確認しながら、本格的な梅雨入り前に「中干し」を開始して「地固め」しましょう!! → **注意：遅すぎる中干し開始**

1. 適期中干しを開始しましょう!!

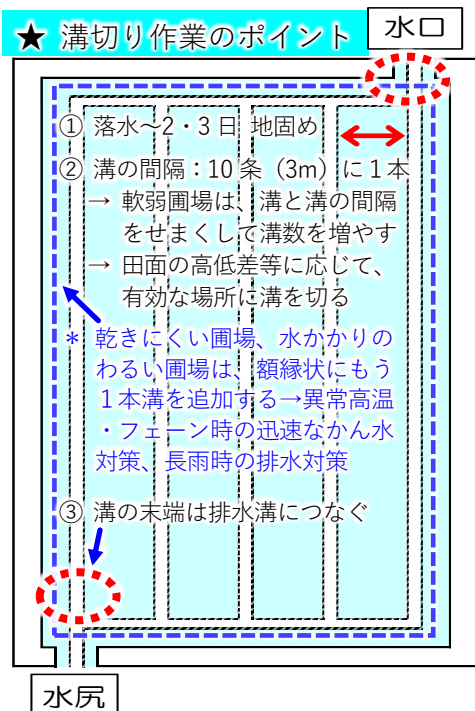
(1) **中干し開始の目安** … 目標茎数（目標穂数の80%程度）を確保したら速やかに!!

品種名	コシヒカリ		こしいぶき	ゆきん子舞	ゆきの精	新之助	五百万石	わたぼうし	ゆきみらい
栽植密度	50株	60株	60株	60株	60株	50株	60株	60株	60株
目標穂数	350本/㎡	350本/㎡	400本/㎡	420本/㎡	380本/㎡	400本/㎡	325本/㎡	350本/㎡	380本/㎡
開始の目安	草丈	30cm	30cm	30cm	30cm	30cm	28cm	28cm	30cm
	茎数	18本/株	15本/株	17本/株	18本/株	17本/株	21本/株	14本/株	15本/株
	葉数	7.0葉							

◆ 生育過剰になりやすい地域・ほ場では、早め（目標穂数の70%程度）の中干しを徹底して下さい。

(2) 溝切り

長雨・渇水・異常高温などの“気象変動”に備えて…
→ **全ほ場で「溝切り」を実施しましょう!!**



【溝切り：施工目標】

① 溝切りは**全ほ場で実施する**

② 溝の間隔は最低でも10条（3.0m）に1本程度

- ◆ 溝の深さは、10cm以上を確保する
- ◆ 各溝の末端は、必ず排水溝につなげる

* 作溝が不十分な場合は、再度溝切りを実施する

☆ 中干しの効果

- ① 無効分げつの発生抑制による“適正生育量の確保”
- ② 土壌への酸素供給による“根の健全化”
- ③ 下位節間の伸長抑制による“倒伏軽減”
- ④ コンバイン収穫作業が可能な“地耐力の確保”

☆ 溝切りの効果

- ① 中干し効果の安定
- ② 中干し以降の水管理（異常高温・強風フェーン、大雨・長雨等の緊急時の給排水）が容易となる

SDGs 13

「浅水管理・中干し」

の徹底で温室効果ガスの発生を削減しましょう!!

(3) **中干し終了の目安** … “小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度” となったら終了します!!

中干し終了後は、◆根の健全化、◆うわ根の発生促進、◆地耐力の維持に努める必要があります。
中干しは“小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度” になったら終了することを基本として、地耐力が確保できるよう、ほ場ごとに長さ・強さを調節しましょう。（遅くとも出穂1ヵ月前（幼穂形成期）までには終了します。）



適正な中干し（小ヒビ）



この状態は乾かし過ぎです！
強すぎる中干し（大ヒビ）

強すぎる中干し（大ヒビ）厳禁!

- ① 根の断裂等により、幼穂形成期から急激に“葉色低下”します!
- ② “高温障害”を受けやすくなります!
- ③ “除草効果が急激に低下”します!

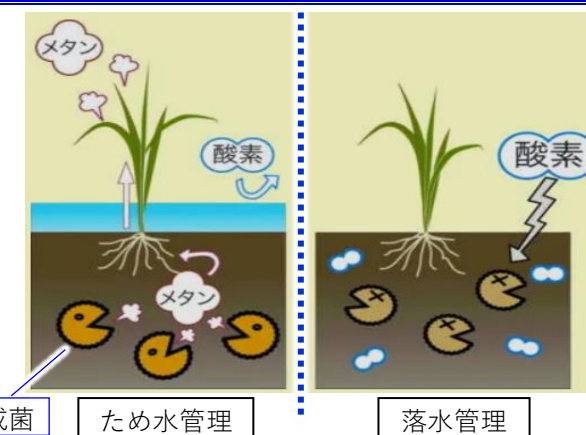
(4) 「中干し：7日間延長」で温室効果ガスを削減!!

SDGs 13 気候変動やその影響を減らすための「具体的な対策」として、今すぐ行動しよう!!

「水田中干しを1週間延長」して、温室効果ガスの発生を抑制します!!

水田の土壌中には、メタンを作る微生物（メタン生成菌）が住んでいます。この生成菌は酸素が少ない条件を好み、水稻を育てるために水田に水を張る（湛水する）ことで土壌中の酸素が少なくなり、生成菌の活動が活性化し、多量のメタンが生成され大気中に放出されてしまいます。

一方、中干し（落水管理）を徹底・延長することで土壌中にしっかり酸素が供給されることで生成菌の活動が衰え慣行中干しよりも長く中干ししたほ場（24日間＝慣行17日間＋7日間延長）では、メタンの発生量が約40%削減されます。



【図：「1週間×延長中干し」のイメージ】

月日	6/5	6/15	6/25	7/5	7/15	7/25	
稲作ステージ	有効分げつ期 → 最高分げつ期			幼穂形成期 ⇒⇒⇒⇒ 出穂期			
慣行中干し	浅水	中干し		間断かん水→飽水管理→→→			
1週間×延長中干し	浅水	1週間×延長中干し		間断かん水→飽水管理→→→			
	中干し開始	中干し期間（3週間程）		必ず「小ヒビで終了」します!!			
		気象・圃場の条件によって長さ（期間）・強さを調整します!!					
		【遅くとも出穂1ヵ月前までに終了】					
		*注① 晴天が続くときは適宜入水して「大ヒビに注意」!! *注② 入水した水は必ず1日以内に落水「長期湛水はダメ」					

これまで取り組んできた中干しを「7日間延長するイメージ」で幼穂形成期前まで“延長中干し”に取り組みましょう!!

2. 病虫害・本田雑草防除対策

(1) 葉いもち対策

- ① 放置されている補植苗は、いもち病の発生源となります。→ 補植苗を速やかに撤去しましょう。
- ② いもち病の発生しやすいは場（常発地域・転作大豆あと）や品種（わたぼうし・新之助など）で育苗箱処理剤（ツインパディート箱粒剤など）による葉いもち防除を実施していない場合は・・・6月10日頃（中干し開始前）までに予防粒剤による葉いもち防除を徹底しましょう！



田んぼに補植苗は残っていませんか？ →→→
その補植苗!! いもち病の発生源になります!!



ポイント

資材名	10 a 使用量	使用時期	備考
ルーチン粒剤	1kg	いもちの初発7日前まで（収穫30日前まで）	湛水散布(3cm以上)

- ③ 茎数過剰は、葉いもちの発生を助長します。適期中干しにより過繁茂を防止しましょう。

(2) 本田雑草防除対策

- ① “小ヒビ中干し”と“中干し後の飽水管理”により、田面が潤っている状態（土壌水分）を維持し、除草効果の急激な低下を防ぎましょう。⇒ **後発雑草対策**
- ② 本田内雑草（ヒエ・ホタルイ等）の発生は、“栄養競合による玄米品質の低下”や“斑点米発生リスクの増大”を招きます。雑草の発生状況や種類に応じて中後期除草剤による雑草防除を徹底して下さい。

種類	資材名		10 a 使用量	使用時期（移植水稻）	備考
イネ科	クリンチャー	1 キロ粒剤	1 k g	移植後 7 日～ノビエ 4 葉期（但し 収穫 30 日前まで）	●● 湛水 散布
			1.5 k g	移植後 25 日～ノビエ 5 葉期（但し 収穫 30 日前まで）	
		ジャンボ	20 個（1.0 k g）	移植後 7 日～ノビエ 4 葉期（但し 収穫 30 日前まで）	
			30 個（1.5 k g）	移植後 25 日～ノビエ 5 葉期（但し 収穫 30 日前まで）	
		EW	100m ℓ	移植後 20 日～ノビエ 6 葉期（但し 収穫 30 日前まで）	
広葉	クリンチャーバス ME 液		1000m ℓ	移植後 15 日～ノビエ 5 葉期（但し 収穫 50 日前まで）	▼▼ 落水 散布
	バサグラン	粒剤	3～4 k g	移植後 15～55 日（但し 収穫 60 日前まで）	
		液剤	500～700m ℓ	移植後 15～55 日（但し 収穫 50 日前まで）	

※ 雑草の種類や葉齢により使用時期が異なりますので、登録内容を確認してから使用して下さい。
5割減栽培でクリンチャーバス ME 液剤を使用した場合は、クリンチャー及びバサグランの単剤を使用（併用）できませんので、注意して下さい。

(3) 斑点米カメムシ対策

写真：斑点米被害を発生させる主要カメムシ類



①アカシジ カスミカメ



②アカヒゲ ホソミドリカスミカメ



③オオトゲ シラホシカメムシ



④クモヘリカメムシ

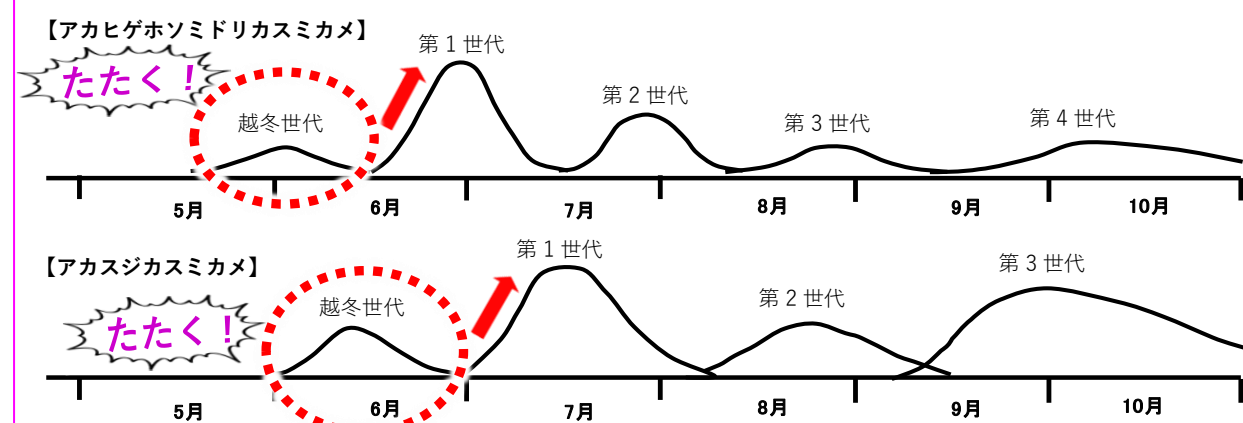


⑤ホソハリカメムシ

新潟県内の主要なカメムシ類のうち、カスミカメムシ2種（①アカシジカスミカメ・②アカヒゲミドリカスミカメ）は、2011年ころから農道・畦畔の雑草中で密度が高まり、2013年の急増以降は「高止まり」の状態では推移しています。

令和4年産米の斑点米による格落数量は301俵/60kgで、薬剤防除期間中（7月下旬～8月上旬）に好天が続く薬剤効果が安定したことや色彩選別機の普及・活用により、前年・平年を下回る結果となっています。しかし、近年の気候変動の影響により、県内・管内全域でカメムシ類の確認地点率が高まってきており、地域・品種を問わず斑点米被害が年々拡大している傾向となっています。

図. アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫・アカシジカスミカメ成虫の発生消長



注意

カスミカメムシ類は休眠卵で越冬し、5月中旬から孵化を始めた幼虫が“越冬世代”となります。令和4年のカスミカメムシ類の発生量（確認地点率・すくい取り虫数）が平年並みに多かったことから、今春の越冬世代幼虫も平年並みに多くなるものと推察されます。

対策

越冬・孵化した“越冬世代幼虫”は、**農道・畦畔等のイネ科雑草を寄主・エサ場として増殖します!!**
カメムシ類の密度を低減～被害を軽減させるために、地域全体で連携して・・・
春先からイネ科雑草を出穂させない雑草管理を徹底しましょう!!

“ただちに除草”指名手配：「雑草」

メヒシバ



ナギナタガヤ



宮農情報 LINE 営業中(* /w /)!

宮農・稲作に関する情報を
随時・迅速に配信しています!!

LINEアプリの[ホーム]から
[友だち追加] > [QRコード]で
右のQRコードを読み取ってネ!



「友だち登録」お待ちしております!! m(_)_m

～～ 宮農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの宮農センターへ ～～
次回稲作情報：6月中旬「生育速報、中干し以降の水管理、中間追肥、病虫害対策」（予定）